

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
1	将軍の孫	北村 西望	八王子駅入口 交差点	横山町3-9	ブロンズ	<p>市の玄関といえるJR八王子駅前通りと甲州街道との交差点の歩道上で、人通りが多い。歩道拡幅工事によって生み出されたオープンスペースで、周囲にはキンモクセイ等花の咲く植樹がある。</p> <p>大正7年の作品。当時、日露戦争の軍神であった橋中佐の立像を制作するため遺品を預かっていたところ、麦藁帽子をかぶって西望のアトリエに遊びに来た当時3歳の長男・治禧(はるよし)が、ぶかぶかの軍靴をはき、西望に拳手の礼をとったあどけない姿をモデルにしたもの。</p> <p>このエピソードについて、治禧氏は「当時よく麦藁帽子をかぶって父のアトリエに遊びに行き、回転台に乗ったことを覚えています。」と回想している。</p> <p>この作品は、文部省第12回美術展覧会(文展)に出品され、推薦を受けている。文展における推薦は無監査と同じ。大正5年に文展の褒状制度が改正され、入賞は一括して特選となり、新たに無監査の推薦が設定された。なお、この像は当時青山にあった学習院の幼稚園と府中刑務所に設置された。</p>	平成元年3月
2	若き日の母	北村 西望	八王子駅入口 交差点	横山町3-9	ブロンズ	<p>市の玄関といえるJR八王子駅前通りと甲州街道との交差点の歩道上で、人通りが多い。歩道拡幅工事によって生み出されたオープンスペースで、周囲にはキンモクセイ等花の咲く植樹がある。</p> <p>大正14年の作品をもとにして、昭和59年に作られた作品。大正という詩と夢のあるロマンチックな時代。5人の子供にも恵まれた西望は、大正14年に帝国美術院会員となっている。この作品は、そうした状況の作者の平らかな心境を示している。</p> <p>西望は、ことに男性像に優れ、女性像に秀でた建畠大夢、男性女性像ともに優れた朝倉文夫とともに三羽がらすと呼ばれていた。大正14年の作品は、そうした評価への抵抗精神の現れともいわれている。なお、この作品のモデルはない。</p>	平成元年3月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
3	礎	関 敏			黒御影石	<p>第3回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「皆さんがこの彫刻に触れてくれるので、手の油が染み込み、何ともいえないしっとりとした色合いが出ている。こうした抽象的な作品は、見る人の感覚によりとらえ方は自由だ」と作者は語る。</p>	昭和55年11月
4	関係	ポール・アッシュエンバッハ			白御影石	<p>第3回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>不揃いの三つの小山が横に並んだような作品。社会は、人間同士の連合体。連続する石の中に、人の気持ちと気持ちがつながっていく様を表現している。</p>	昭和55年11月
5	立つ女	黒田 嘉治	西放射線 ユーロード 三崎町公園	三崎町4	ブロンズ	<p>西放射線ユーロードの一角、ドンキホーテ前の道路を隔てた広場にあり、買い物の歩行者の人に溶け込んでいる。ブロンズの裸婦像。「素朴で清潔感にあふれる、人間のあたたかさを感じさせてくれるような女性を表現するのが私の仕事。」と作者は語る。</p>	昭和59年3月
6	風拓No.3	大成 浩	西放射線 ユーロード ドン・キホーテ前	中町1-3	黒御影石	<p>「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものだ。</p> <p>風(歴史)が通り過ぎたあとに芯が残り、そこから、新しい息吹が芽生え育つ様を表現している。</p>	昭和50年11月
7	箱の中	増田 正和	西放射線 ユーロード 関口カバン店前	中町4-1	白御影石	<p>第5回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「原石から融発された箱のイメージを具体化した。完成された作品は、見る人にそれぞれの連想をうながすだろう。それは、ガラクタ箱であったり、あるいは現代の石棺であるかもしれない。私にとっては、1984年の夏のすべてを封じ込めたタイムカプセルでもある」と作者は語る。</p>	昭和60年2月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
8	空間の面	秋山 礼己	西放射線 ユーロード ABC-MART前	中町8-1	白御影石	第2回八王子彫刻シンポジウム作品 ゆがんだ窓枠のような、時として我々が体験する錯覚や幻覚をテーマにした作品。「四角い窓枠も本当の姿は、ゆがんでいるのかも。今あるものをもう一度見つめ直してほしい。」と作者は語る。	昭和53年11月
9	ひざし	高橋 洋	西放射線 ユーロード 中町公園	中町9	ブロンズ	少女と人形がベンチに腰掛けてひなたぼっこ。一緒に腰掛けたいくなるような作品。「彫刻と見る者は、同一空間に存在するもの。離れて見るのではなく、遠慮なく触れ、もっと身近に接して欲しい。」と作者は語る。	昭和60年3月
10	自然と時	ヤネツ・レナー シイ	西放射線 ユーロード 八日町交差点	横山町14-6	白御影石	第5回八王子彫刻シンポジウム作品 上部の渦巻模様の中央部分から噴水のように水が溢れ出す彫刻。「流れる水は自然・人生・時を表し、時が廻りながら歴史を作っていく。それを私は彫刻で表現している。水の流れは、やがて宇宙へ注がれる。」と作者は語る。	昭和59年11月
11	水紋	緒方 良信	八王子スクエア ビル南側	旭町8-1	白御影石	第5回八王子彫刻シンポジウム作品 「生々流転。一滴に始まる一筋の流れ、千変万化の水。水の織り成す模様は、生あるものの一生に何か共通したものがあるのでは」と作者は語る。	昭和59年11月
12	友の顔(達々) I	酒井 良	仁和会総合病 院脇歩道	明神町4-8	黒御影石	「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものの。 この作品のテーマは、ものの組み合わせや、ねじれを表現すること。「友人から受けたイメージを、顔そのものとしてではなく、内面的なものとして表現した。」と作者は語る。	昭和50年11月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
13	四つの形	渡辺 隆根	浅川大橋南交 差点	元横山町2-4	白御影石	第1回八王子彫刻シンポジウム作品 四という数を元に自分の体質的なもの、感情的なものなど内側から突き出てくるものを表現している。	昭和51年11月
14	和の角笛	井上 久照	八王子スクエア ビル東側	旭町9-1	ブロンズ	第16回西望賞受賞作品 「20年前に私が中東に行った時に、砂漠の中の町で角笛を吹いている光景に出会い感動した。 角笛は羊の角を伸ばして作ったもので、新年とか祝い の時に喜びを表し平和の祈りでもあると聞き、いつか制作 したいと思っていた。 族長が平和を願って角笛を吹いている姿に見えるよ うだが、それはそれで良いと思う」と作者は語る。	平成9年1月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
15	創造	竹田 光幸	クリエイトホール 1階ロビー	東町5-6	欅(樹齢100年)	<p>豊かな物質文明の中であらためて人と自然を見直す事が求められている今日、新たな時代を目前にして私達に多くのことが語りかけてくる。日本の文化は自然と共につくられてた。日本は木の文化と言われますように、木に対する愛着は特別である。木彫刻は、自然に恵まれた八王子市に相応しいもの。</p> <p>作品『創造』は、生涯学習センター内のモニュメントとして人と自然をテーマにして創造の喜びを表現したものの。建築ホール内の森の木立がとぎれる空間に相応しく設置された彫刻には、欅特有の木理の美しさと強さが溢れ、あらゆる可能性をもって創造する人の手と球体の形態からすべての創造の意志を表した。その隣には古くから人間にとって最も近く親しい生物の代表としての犬が向かい合い、人と自然の豊かな融合の語らいをイメージしてモニュメントを計画した。木彫りの素材は関東で生育した美しい欅材の大樹。木は新たな形として生まれ変わりクリエイトホール内で末永く平和と創造を願って、新たな芽生えとして生き続けることだろう。</p> <p>制作手法においては、伝統的な彫刻技法で刻まれた作品の中から気韻生動が現れるように一刀三礼の思いで制作した。手首のリボンは森の梢の間をさわやかに通ってくる涼風に揺らめき、結び目は結実を願ったもの。木彫作品は、市民が手で触れて鑑賞できるように制作され、憩いの場として離合集散の空間にふさわしい躍動感のある息づかいが感じられる彫刻になっている。</p>	平成11年11月
16	夢	北村 西望	夢美術館ホワイエ	八日町8-1 ビュータワー 八王子2F	ブロンズ	平成15年10月美術館開館記念として(株)日野自動車より寄贈	平成15年9月
17	太陽がやってくる	松本 進	あったかホール 駐車場	北野町596-3	鉄	<p>「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものの。</p> <p>ビートルズの歌う「Here comes the sun」という曲をイメージして制作したもの。女性特有の曲線を避け、直線的な女性を太陽に向わせた。</p>	平成23年3月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
18	雲	岡野 裕	大横保健福祉センター	大横町11-35	白大理石	<p>「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものの。</p> <p>大空に浮かぶ雲が絶え間なく動き様々に形を変える面白さを表している。</p>	平成26年12月 (昭和50年11月～平成23年3月まで旧市民会館)
19	樹下に集う	竹田 光幸	オリンパスホール八王子 グランドホワイエ	子安町四丁目7番1号サザンスカイタワー八王子5階	楠	<p>この作品は日本の伝統的な柱をテーマに制作された。この柱は八王子市の永遠の発展を願う「柱」である。</p> <p>日本の春夏秋冬の四季の彩りには、自然の息吹と共に光と影のリズムの美しさが溢れている。木は大地に豊かな恵みを与えるとともに、降り注ぐ光や若葉の輝きには日本人の心と精神のよりどころがそこにあり、樹木そのものが日本の自然の「心の柱」として存在している。</p> <p>八王子市の魅力は自然に囲まれた緑の多い街で、学園都市としても若人が集う街。柱のタイトル「樹下に集う」は、自然の樹に守られた明るい八王子市のシンボルとして名づけられた。</p> <p>一本の大楠(おおぐす)が16個の部材に分割され、日本の伝統的な手法を持って再び組み合わされ、柱として創造された。そして、八王子市が永遠の平和と豊かな創造の街であることを願った。</p>	平成23年4月
20	風拓No.4	大成 浩	八王子消防署	上野町33	白御影石	<p>第2回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>風拓の風とは、時間の意味。作品の中に見られる三つの膨らみは、過去・現在・未来という時間の波を表現している。</p>	平成27年1月 (昭和53年11月～平成23年3月まで旧市民会館)

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
21	大地	小野寺 優元	市民体育館前	台町2-3	黒御影石	<p>「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものの。</p> <p>女性の形(フォルム)をかりて人間の持っているおおらかさとたくましさを表現している。</p>	昭和50年11月
22	私の影(IDENTITY)	中本 成紀	市民体育館前	台町2-3	黒石	<p>「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものの。</p> <p>筋骨のたくましさと身体のねじれから突き上げるような力強さを黒御影石の中に表現している。</p>	昭和50年11月
23	空(KU)	前田 耕成	市民体育館前	台町2-3	黒・白御影石	<p>「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものの。</p> <p>形は上へ向かって広がり、内側は磨かれている。ちょっと中を覗いてみたくなるような楽しい作品。 「空にある雲や太陽をつかまえ、太陽の呼吸を感じてみたい」という作者の思いがこめられている。</p>	昭和50年11月
24	積	丸山 映	市民体育館前 駐車場	台町2-4	白御影石	<p>第2回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>コンクリートだらけの中に、同じ石を使って作者の生涯のテーマである「人間的な温かさ」を表現している。</p>	昭和53年11月
25	風の香	大貝 滝雄	市民体育館内	台町2-3-7	黒石	<p>「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものの。</p> <p>四季おりおりに風が運ぶ自然の香をうたっている。</p>	昭和50年11月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
26	風祭	小林 亮介	富士森公園東口	台町2-2	白御影石	第1回八王子彫刻シンポジウム作品 秋の収穫を前に、台風を静め豊作を祈るのが「風祭」。祭に不可欠な太鼓を原形に、そこから突き出す三本の角は、響きや人々の願いを表現している。	昭和51年11月
27	風の標識No.2	大成 浩	富士森公園中央広場	台町2-2	白御影石	第1回八王子彫刻シンポジウム作品 風は自然の中を自分のリズムで流れ、標識を通して様々な方向に進む。風(自然)には人の気持ちが溶け込んでおりその動きを人間の存在として表現している。八王子彫刻シンポジウム開催場所に隣接している。	昭和51年11月
28	メイドン・ボエジ	杉山 功	JR西八王子駅南口広場	散田町3-48	白御影石	第4回八王子彫刻シンポジウム作品 博多人形を思わせる丸みをおびたこの作品の題名の意味は「処女航海」。女性独特のふっくらした丸みの中に、人間の温かさを表現している。	昭和57年11月
29	海	渡辺 隆根	東京都民銀行西八王子支店前	台町4-48	スウェーデン御影石	「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものの。 生き物をイメージし、生命の源である海を表現している。	昭和50年11月
31	平和な朝	圓鍔 勝三	市役所玄関前	元本郷町3-24-1	ブロンズ	市庁舎の開設に伴い購入したものであり、正面玄関前のロータリーの中央にある道路側から見て庁舎建物と一体となる様に配置してある。 正面から右手にラッパを吹く少年と少年の足元に鶏、左手には衣を風になびかせた二人の婦人像と婦人の足元から飛び立つ鳩。 夜が明け、朝の調べを告げる少年。いつまでも、平和なまちであることを祈りつつ、平和の喜びを婦人の姿に託して表現している。	昭和58年9月



番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
32	海の鳥と少年	淀井 敏夫	市役所玄関前	元本郷町3-24-1	ブロンズ	市庁舎の開設に伴い購入したものであり、南側広場のほぼ中央にあり木陰にあるベンチと共に市民広場を形成している。 「海草や貝をちりばめた台座が海。その上を前途洋々たる少年が悠々と歩んでゆく。我々人類の輝かしい未来を表現した。」と作者は語る。	昭和58年9月
33	八王子	橋本 次郎	鶴巻橋	元本郷町4-21	ブロンズ	八王子の名の謂れである民話と、市の木・イチョウとを組み合わせて造形を試みたもの。 その民話とは、「大和の牛頭大王がお手引き地蔵に手を引かれて八王子に招かれ、この地を治めたが、大王は大和恋しさで帰ろうとした。村人たちは帰らないでくれと申し出て、困り果てた大王は8人の王子を残して帰られた。」というもの。 市の木、イチョウの葉陰から顔をのぞかせているのが8人の王子。	昭和58年5月
34	由比の牧	橋本 次郎	鶴巻橋	元本郷町4-21	ブロンズ	今から千年ほど昔、貳分方町一帯に朝廷直轄の牧場「由比の牧」があったといわれることに基づいて作られている。平安時代、武蔵国は、代表的な馬の産地で、石川、小川、由比、立野という4つの官営の牧(牧場)があり、このうち、由比は現在の貳分方町、石川は現在の石川町であるという説がある。 「若駒にまたがった童子の姿に、躍動感を感じていただけたら」と作者は語る。	昭和58年5月
35	松姫	橋本 次郎	鶴巻橋	元本郷町4-21	ブロンズ	市の歴史上の人物である武田信玄の息女松姫をモデルにしたもの。武田信玄の息女・松姫は織田信長の長男・信忠との婚約が成立したものの、両家の不和によって実を結ぶことなく、信忠は本能寺の変で自害。武田氏滅亡で追われ武蔵に逃れた松姫は、八王子に庇護されて尼となり信松院を開基しました。 「いつもやさしさを忘れないでほしいと思い、松姫さまを選びました。」と作者は語る。	昭和58年5月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
36	乙女	橋本 次郎	鶴巻橋	元本郷町4-21	ブロンズ	<p>この作品は、ギターを抱えた若い女性の裸像。これからの文化をになう若人がギターをつまびく乙女の姿で八王子の発展を望んでいる。</p> <p>「学園都市八王子は、若人の街。未来に向かう若い力に期待する」と作者は語る。</p>	昭和58年5月
37	桑の都	橋本 次郎	鶴巻橋	元本郷町4-21	ブロンズ	<p>カゴを抱えて桑の葉を摘む、若い女性の像。</p> <p>桑都とも呼ばれた八王子は、織物業が盛んだった。周辺の農村では、桑を植え養蚕を行い、生糸を作り織物が織られた。こうした織物は、八王子市場に集荷され、18世紀後半には、江戸町人の勢力台頭と幕府の奨励もあって、八王子地方は桐生、足利と並ぶ織物の産地として全国的に市場を拡大した。</p> <p>また、1958年外国貿易が開始され、輸出(生糸)は八王子・武州・上州・甲州・信州の養蚕地帯から八王子に集められた。この搬出ルートが「絹の道」である。鍮水を中心に「鍮水商人」が活躍し、異人館が建つほどであった。</p> <p>「織物の街八王子から、第一に頭に浮かんだのが養蚕。これからは、国際感覚を備えた都市に発展して欲しいという願いから、女性の姿はロングドレスの洋装にした。」と作者は語る。</p>	昭和58年5月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
38	千人同心	橋本 次郎	鶴巻橋	元本郷町3-24	ブロンズ	<p>八王子の歴史の中で大きな存在である「千人同心」立像。江戸時代に入り、徳川家康は、八王子を政治的にも軍事的にも重要な地として武田の小人頭を中心に甲州口の警護に当たさせた。この警護にあたった武士が千人同心。同心の多くは、ふだんは農耕に従事し、いざというときに武器を持って戦う半農半士の生活をしてきた。</p> <p>彼らは、1652年からは、日光東照宮の火消し役を命ぜられて交代で赴任。また、18世紀後半になると、千人同心、特に二男、三男の生活は困窮していたが、この頃、北方警備の重要性が認識され始めたため、千人頭の前半左衛門胤敦は、北海道の警備と開拓を志願し、1800年に苦小牧に渡った。しかし厳しい自然条件の中で不毛の地を開拓するのは、過酷で1809年に八王子に戻る。</p> <p>作者は「左手を脇差に、右手に槍を持ったこの同心は、何百人もの同心たちを従えながら、歩いているんです。」と語る。</p>	昭和58年5月
39	夕やけ小やけ	橋本 次郎	鶴巻橋	元本郷町3-24	ブロンズ	<p>かすりの着物を着た小さな男の子と女の子が、赤とんぼを追って夕焼け小焼けの空を眺めながら山を降り、ゆうげの我が家に帰る姿を表している。童謡作家中村雨紅(本名 高井宮吉)の故郷は八王子で、小さな男の子が指差している方向、宮尾神社境内には「夕焼け小焼けの碑」がある。</p> <p>「恩方出身の詩人・中村雨紅が作詞した童謡夕焼け小焼けをそのままイメージした。」と作者は語る。</p>	昭和58年5月
40	鶴舞	橋本 次郎	鶴巻橋	元本郷町3-24	ブロンズ	<p>市の花、ヤマユリの絵柄の衣をまとい鶴とともに大空へ舞い上がる女性の像。市民公募で名付けられた「鶴巻橋」をどのような形で表したらよいかと考え、乙女と鶴の舞姿を組み合わせて衣装に市の花ヤマユリを彫った。</p> <p>作者の、八王子の平和と発展への願いがこめられている。</p>	昭和58年5月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
41	波頭	渡辺 隆根	横川橋	元本郷町4-15	御影石	横川橋の親柱には、それぞれ水・風・緑・空をテーマにした4つの作品が設置されている。 この作品は、そのひとつで、水を象徴し、おわんの形の下部が水を、突き出た上部が命ある魚を象徴しています。形にとらわれず、様々な姿で存在する生物の力強さを表現している。	昭和53年4月
42	紺碧の空へ	丸山 映	横川橋	横川町105	御影石	横川橋の親柱には、それぞれ水・風・緑・空をテーマにした4つの作品が設置されている。 この作品は、そのひとつで空をテーマにしています。平面上での美を追究し、そこに厚みを加えていく手法で美しい裸婦の姿が彫刻されており、青空を仰いで、そこに吸い込まれたい感情を表現している。	昭和53年4月
43	みどりの浮標	大貝 滝雄	横川橋	横川町107	御影石	横川橋の親柱には、それぞれ水・風・緑・空をテーマにした4つの作品が設置されている。 この作品は、そのひとつで 緑をテーマにしています。型のうねりは時間、丸みは自然に対する人間の優しさを表現しており、緑(自然)と人間が長い時間の経過の中で結びついてきた様子を表現している。	昭和53年4月
44	風洞No. 2	大成 浩	横川橋	元本郷町4-15	御影石	横川橋の親柱には、それぞれ水・風・緑・空をテーマにした4つの作品が設置されている。 この作品は、そのひとつで 風をテーマにしている。作者は、南浅川の川面をなでるさわやかな風がそっとこの橋を通り抜ける様子をイメージしながら制作した。	昭和53年4月
45	地韻	水島 道雄	教育センター	散田町2-37-1	白御影石	第3回八王子彫刻シンポジウム作品 「婦人の肩にある三日月は、天と地が交わり遊ぶ様。こうした夢は、命あるものにとって必要なもの。」母なる大地。生命感のある大地のリズムを女性に託して表現したという作品。	昭和55年11月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
46	石の詩	中井 延也	JR高尾駅 南口広場	初沢町2241	白御影石	第1回八王子彫刻シンポジウム作品 「人はだれでも心の中に優しさを持ち、喜びを望む。人の内に秘めたものは詩にたとえられる。それを表現した。」と作者は語る。	昭和51年11月
47	風の中の母子	坂井 彰夫	元八王子事務所	大楽寺町419-1	白御影石	第4回八王子彫刻シンポジウム作品 この作品のテーマは、母性愛。母親が子どもをかばうように風に向う立像。「温かみが増すよう、鉄分の多い白御影石で作った。」と作者は語る。	昭和57年11月
48	和	富樫 一	東京医科大学 八王子医療センター	館町1163	白御影石	第3回八王子彫刻シンポジウム作品 両手を合わせたような形が、包容力のある温かさを感じさせてくれる彫刻。この作品が作者の遺作となる。	昭和55年11月
49	微風(そよかぜ)	桜井 敏生	京王線めじろ台 駅前	めじろ台1-1	黒御影石	「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものだ。 人と人とがふれあう喜びを、女体をかりて表現している。	昭和50年11月
50	ひよつとこ	吉井 講二	京王線めじろ台 駅前	めじろ台1-1	黒石	「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものだ。 日本の家の屋根や瓦の持つ伝統美を追求する作者のテーマから生まれた。	昭和50年11月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
51	作品	鈴木 徹	京王線めじろ台駅前	めじろ台1-1	黒御影石	「学園都市八王子」には、2つの美術大学があり、多くの先生・学生が研究創作活動を行っている。この活動をまちづくりへも生かしてほしいという市長の呼びかけに答えて先生方が、昭和50年11月3日に作品を設置したものだ。  体と足という二つの塊が一つにまとまった時の美しさを表現している。	昭和50年11月
52	無題	オズワルト・ステイム	国道20号長房団地入口交差点10m北	並木町37	白御影石	第2回八王子彫刻シンポジウム作品  平面に点を浮かすのが作者の技法。この作品は、空の上から地上を眺めた景色で、すべてが見えすぎて題が付けられずに「無題」に。	昭和53年11月
53	梟家族Ⅱ	手塚 登久夫	梶田運動場	梶田町517-1	黒大理石	第6回八王子彫刻シンポジウム作品  ふくろうの家族の情景。自然と人との間にも親子・兄弟のようなつながりや温かみがある。その意味を形にし表現している。	昭和63年3月
54	時間塊	原 透	元八王子市民センター	上巻分方町747-1	御影石	第10回八王子彫刻シンポジウム作品  「石が長い時間を掛けて曲がる。その歪みは石の中に蓄積された力、時間の証となる」と作者は語る。	平成9年3月
55	浦島一長寿の舞	北村 西望	片倉城跡公園	片倉町2475	高純度アルミ	国道16号沿いの片倉城跡公園内に設置され、他の彫刻とともに彫刻の広場を形成している。  市では、昭和53年度からすすめている「彫刻のまちづくり」の一環として、昭和54年8月に日彫展に新設された特別賞「西望賞」の受賞作品を昭和56年度から継続して購入設置していくこととした。(第1回受賞作品から購入) このことを記念し、また受賞作品設置場所の片倉城公園に調和した作品ということで、この彫刻が設置されたもの。	昭和57年3月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
56	西望自刻像	北村 西望	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	市の「彫刻のまちづくり事業」にゆかりの深い北村西望氏の自刻像を、氏のゆかりの深い片倉城跡公園に設置した。 長崎市にある「平和祈念像」等の作者として著名な彫刻家が、生前に自己の姿を彫刻したもの。	昭和63年12月
57	貌	溝口 寛	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第1回西望賞受賞作品 力強い男性の首像。「年取った男の顔に興味があり、顔を思い切った荒いタッチで表現した。人生の重みのようなものを感じていただけたら。」と作者は語る。	昭和57年3月
58	希望	長江 録弥	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第2回西望賞受賞作品 国道16号沿いの片倉城跡公園内に設置され、他の彫刻とともに彫刻の広場を形成している。 少女が抱いているのは、渡り鳥のツグミ。大きくなったら、広く外国へも飛んでいっているんな知識を得て欲しいとの作者の思いがこめられている。	昭和57年3月
59	酔っぱらい	坂 坦道	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第3回西望賞受賞作品 国道16号沿いの片倉城跡公園内に設置され、他の彫刻とともに彫刻の広場を形成している。 酔っぱらった男の等身大立像。あつちをふらふら。こつちをふらふら。人生なんて、あてもなくさ迷う酔っぱらいのようなもの。こんな人生の不安定さを表現している。	昭和57年12月
60	春風	木内 禮智	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第4回西望賞受賞作品 「女性特有のふっくらした丸みのある体を借りてのびやかさを表現した。見る人に、この作品がふわっと大きく弾んで見えたら」と作者は語る。	昭和59年2月
61	独	雨宮 淳	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第5回西望賞受賞作品 一人静かに物思いにふける美しい夫人の像。「人間は、生まれたままの姿が一番美しい。裸婦像には、作者の年齢が表れるとというのが、常に作品の中に『若さ』を表現したい。」と作者は語る。	昭和60年3月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
62	早く来ないかなあ	宮瀬 富之	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第6回西望賞受賞作品 バス停で少し前かがみになってバスを待っている少女の像。春を待ちこがれ、愛する人を胸ときめかせて待つ。そんな心の中にある素直な願望を表現している。	昭和61年1月
63	春を感じて	土田 副正	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第7回西望賞受賞作品 長い髪をなびかせ、右足を一步前にして、今にも歩き出しそうな裸婦像。優しさ、柔らかさといったものを女性の体に託して表現している。	昭和62年2月
64	少年	瀬戸 剛	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第8回西望賞受賞作品 しなやかな少年の裸像。モデルは作者のご子息。	昭和63年2月
65	雪の朝	今城 國忠	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第9回西望賞受賞作品 雪の朝、部屋の中で高校受験の女の子が緊張した心を静めている姿の立像。	昭和63年10月
66	ダンシングオールナイト	江里 敏明	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第10回西望賞受賞作品 ディスコで踊る若い女性の躍動感と陶醉している様子を表現。	平成2年3月
67	憧れ	山本 眞輔	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第11回西望賞受賞作品 年頃の少女が抱く大人になることへの不安のまじったあこがれを表現している。母親のドレスをまとうこの少女は、作者のお嬢さんがモデル。	平成3年3月
68	アテネの戦士	久保 浩	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	第12回西望賞受賞作品 古代ギリシャの美術は、高雅な趣を湛えながら野蛮な力が漲っている。ギリシャ文化を作り上げ護り抜いた人々への精神の高さと誇りを表現している。	平成4年3月



番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
69	風景－海－	桑山 賀行	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	<p>第13回西望賞受賞作品</p> <p>海の近くに生まれ育った作者は、風景や自然に興味を持ち、テーマとしてきた。 作者の生まれ故郷の常滑(愛知県)で見てきた沢山の海辺の風景(漁師や舟等)の中から、今でも鮮明に覚えている砂浜に半ば埋まってしまった漁船の記憶を形にしたもの。</p>	平成5年3月
70	夢につつまれ	石黒 光二	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	<p>第14回西望賞受賞作品</p> <p>「夢」という非現実的なイメージを不安定な状態と体を覆う布のようなもので表現し、その中にも像からはゆったりした感じが出るように表現した。</p>	平成6年3月
71	春休み	東山 俊郎	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	<p>第15回西望賞受賞作品</p> <p>学歴社会の現代、子供たちは楽しい時間も少なく毎日がとても忙しい。 「私も二人の中学生の親である。そんな子供たちに一時の心のゆとりが出来たら、のどかな時間、心のやすらぐ時間を与えてやりたい、そんな願いを込めて制作した。」と作者は語る。</p>	平成7年3月
72	ダナエ(黄金の雨)	亀谷 政代司	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	<p>第18回西望賞受賞作品</p> <p>「以前より興味を持ち制作の題材としてきたギリシャ神話より題材を取り、出来る限り空間の中で人体を意識せず構築と情感を両立したかった。 布の表現は現実的でなく、構成上必要な形にとどめ人体を部分的に観せることにより鑑者の創造力をかきたてたかった。」と作者は語る。</p>	平成9年10月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
73	長い髪	鷺見 香治	片倉城跡公園	片倉町2475	ブロンズ	<p>第19回西望賞受賞作品</p> <p>「髪は女の命と昔からいわれている。この作品は、鏡の前で長い髪をさわっている一人の若い女性の幸福感・充実感など、いつの時代でも変わらぬ心の喜びを表現してみた。だが、あまり情感に流されると、弱い趣味的な作品に落ち入る事に注意をし作品の存在感・魂の強さ・面の構成など彫刻性豊かな作品を作りたかった」と作者は語る。</p>	平成10年11月
74	肖像	丸山 映	京王線北野駅 北口広場	打越町335-1	白御影石	<p>第1回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>日本列島が腰かけたような彫刻。実は、女性が椅子に座り、足を前に突き出した姿。「日本を女性に見立てその形を切り抜くことによって単純化し、石の厚さで立体感を表現した。」と作者は語る。</p>	昭和51年11月
75	横たわる女IV	桜井 敏生	北野台中央公園	北野台4-20	白御影石	<p>第1回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>横たわる女性が、腕・首・足を持ち上げたポーズをとっている像。女性特有の丸みの中に、様々な顔を持つ自然を表現している。</p>	昭和51年11月
76	大気の底	前田 耕成	国道16号山野 美容芸術短期 大学前	鑓水530	白御影石	<p>第4回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>不気味な緊張感で、道行く人に無言の警告を発している彫刻。「上の塊は、公害などの社会の悪。それを支える細い柱は市民。今は、何とか両者のバランスが保たれているが、上の状態次第では・・・。」と作者は語る。</p>	昭和57年11月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
77	原型1984	ブラッド・ゴールドバーグ	コニカミノルタサイエンスドーム (こども科学館)	大横町9-13	白御影石	<p>第5回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「私の研究課題は、人類に共通な『普遍的言語』を形で表そうとすること。この作品に求めているのは、過去と現在の、世界の色々な文化から取り入れた形態と概念との結合。素材を荒削りすることで、古代の精神と現代の精神を同時に持ち合わせた雰囲気を出すように努めた。</p> <p>以上のようなことを中心に抱きながら制作したこの作品は、未来をも見つめている」と作者は語る。</p>	昭和59年11月
78	階段一柱一	岩崎 幸之助	北野台わかば公園	打越町879-210	黒御影石	<p>第9回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>柱を立てたいと考えた。そこに階段を穿(うが)とうと考えた。「柱」は高さへのあこがれ、「階段」はあこがれを達成するための過程への想いから生まれた。空と地を結ぶ彫刻になりえればと作者は思う。</p>	平成5年11月
79	夏至の日のLand-Mark(八王子)	山口 牧生	内裏谷戸公園	南大沢5-24	白御影石	<p>第6回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>夏至の日の正午の太陽の角度に、2㎡の石の四角柱を傾けた。太陽エネルギーに対する賛嘆の気持ちと、季節の日時計となる大地の標識が、この作品。</p>	平成2年3月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
80	化石	大木 達美	内裏谷戸公園	南大沢5-24	白御影石	<p>第6回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「もし戦争があったならば、数万年後、八王子彫刻シンポジウムで製作されたこの作品は、多量に放射能の含まれた地層から、八王子市街の化石の一部として、未来人への20世紀からのメッセージとして出現する。アルミニウムとナットは20世紀の科学のシンボルとして、彫刻に打ち込まれた鉛は毒を暗示し、地層に含まれている多量の放射能は現代科学の失敗を、未来の人類に訴えるでしょう。</p> <p>しかし、八王子市から出てくる化石は、団地・ビル・大学・自動車・公園・遊園地・彫刻の化石ばかりで、ミサイルや戦車の化石が出てこないのになぜ戦争になったのか、未来の考古学者は理解できないでしょう。</p> <p>もし、数万年平和が続いたならば、この作品は、UFOや宇宙船のような不思議なものとして、八王子市民の中に存在しているでしょう。</p> <p>私はこの作品が永久に化石にならないことを祈っている」と作者は語る。</p>	平成2年3月
81	八王子 '88発芽	五十嵐 芳三	大塚公園	松が谷66	本小松石(安山岩)	<p>第7回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「本小松石(安山岩)は採石された形に多様な表情がある。自然の形の中から、自然を見出すために彫刻をする。この作品は、生の源泉を象徴する意味で、大地に眠る種の発芽を表現したい」と作者は語る。</p>	昭和63年11月
82	生	酒井 良	大塚公園	松が谷66	白御影石	<p>第7回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「生きている物、特に人間が好きだ。石彫の中に生なる物の体温を刻みたい。」と作者は語る。</p>	昭和63年11月
83	作品'88	田中 康二郎	大塚公園	松が谷66	赤御影石	<p>第7回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「石の上をはい回る鉄。鉄に縛られた石。石には鉄が似合う。」と作者は語る。</p>	昭和63年11月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
84	眼の城 '88	新妻 寛	富士見台公園	下柚木905-3	大理石	第7回八王子彫刻シンポジウム作品 「アメリカでは、でかいことはいいことだという。このところ、大きな彫刻はいいとはいわない。この八王子で、今制作している大きな彫刻が、いい彫刻であるように掘っている」と作者は語る。	平成3年7月
85	無限 '88	新妻 寛	富士見台公園	下柚木905-3	大理石	第7回八王子彫刻シンポジウム作品 「アメリカでは、でかいことはいいことだという。このところ、大きな彫刻はいいとはいわない。この八王子で、今制作している大きな彫刻が、いい彫刻であるように掘っている」と作者は語る。	平成3年7月
86	史雲 '80	鈴木 徹	大塚橋鹿島側緑地	鹿島110	黒御影石	第3回八王子彫刻シンポジウム作品 この作品は、ギリシア彫刻によくあるような、手足や首のない胴体だけの彫刻で、こうした技法をトルソーと言う。手足をとり、対象を単純化する中に、男性の肉体の美しさを表現している。	昭和55年11月
87	直径24000mmの円周上における1対2対4の弦	前川 義春	南大沢中郷公園	南大沢2-26	白御影石	第9回八王子彫刻シンポジウム作品 コンセプトと形態を出来る限り単純化し、彫刻が自然の影響をうけつつ状態として風景と一体化し、長い時間をかけて完成に向う。作者の石に対する行為は自然と同化してしまわず、あくまで一線を画した上で痕跡を残しつつづけられるものである。	平成5年11月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
88	風の標識No.42	大成 浩	柳沢の池公園	下柚木3-2290-2	赤御影石	<p>第10回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「ここ数年、私は様々な御影石でU字形を創り続けてきた。この形は風に響く音叉であり、風はこの谷間を通り過ぎていく。</p> <p>風は時を越え、宇宙や時間を溶かしながら、流れ続けている。歴史の中で振幅するその時々風の音叉は共鳴するだろう。</p> <p>我々は、時代の流れを方向付けるための『風の標識』に成り得るであろうか。希望と願いを込めて、このシリーズを追求している。」と作者は語る。</p>	平成9年3月
89	記憶の尻尾	高岡 典男	別所公園	別所2-33-2	黒御影石・大理石	<p>第10回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「『知覚された物事は人のそれぞれの記憶の壁の中に残り、記憶の塔(記憶の尻尾)として積み重ねられる。』八王子で10回目を迎える彫刻シンポジウムに招かれたことは、私にとって大変うれしいことである、と同時にまた八王子で20年間に展開された物事に出会えることは最も興味のあることです。」と作者は語る。</p>	平成9年3月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
90	千年の道	小泉 俊巳	南大沢文化会館前	南大沢2-27	ブロンズ・御影石	<p>八王子市南大沢文化会館開館記念として設置</p> <p>「八王子市が明治以降、近代都市としての繁栄を築いた大きな要因のひとつとして、絹産業を抜きには考えられないだろう。もちろんそれは、日本の近代経済発展の大きな基盤でもあった。</p> <p>その八王子絹産業興隆の象徴的存在であり、現在でも当時が偲ばれるものとして南大沢周辺には『絹の道』があり、豊かな自然の中に桑畑も多く見られた。</p> <p>もちろん現在は当時のような絹産業の繁栄は見られないが、我々は先人たちの造り上げた歴史を忘れてはならない。また、我々の未来は、産業経済の発展とともに、自然との共存も考えていかなければならない。</p> <p>それらのことから、私は今回の八王子市南大沢文化会館前モニュメントのメインテーマを「絹の道」とし、絹を天に伸び行く三角柱(顕微鏡写真で見ると絹糸の断面は三角形である)で表現し、当地域の未来への発展を表している。その三角形を支えるように集積する桑の葉は、自然との共存、そして、一枚一枚の葉を人々にたとえ、共に力を合わせることで、さらなる地域発展の希望をシンボライズしている。分散する繭玉は、この場所から新たな歴史が生み出される予感を表現している。</p> <p>(当時)あと数年で西暦2000年を迎えようとしている。新しい千年の始まりである。絹の道が、大きな明るい希望あふれる未来へと続くよう、八王子市南大沢文化会館前モニュメントのタイトルを「千年の道」と名付けたい」と作者は語る。</p>	平成8年9月
91	みどりの風	木内 禮智	柏木小学校北交差点	南大沢3-2	ブロンズ	平成11年3月31日東京都多摩都市整備本部より移管	昭和58年3月
92	集いの詩	工藤 健	南大沢中学校南西角(溜池歩道橋南)	南大沢4-72	ブロンズ	平成11年3月31日東京都多摩都市整備本部より移管	昭和58年3月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
93	風に立つ	工藤 健	南大沢中学校 西側歩行者専用道路	南大沢4-13	ブロンズ	平成13年4月東京都多摩都市整備本部より移管	昭和58年3月
94	二つの笑い	岡野 裕	国道20号高倉 町西交差点	高倉町52-22	白御影石	第4回八王子彫刻シンポジウム作品  石も笑うことがあるでしょうか。重なった大きな唇が、とてもユーモラスな作品。「彫刻には、人の心を和ませる役割がある。この作品のテーマでもある『面白味』を味わっていただければ。」と作者は語る。	昭和57年11月
95	石の歌	マーティン・ シュナイダー	JR北八王子駅 東側	石川町2953-1	白御影石	第8回八王子彫刻シンポジウム作品  「シンポジウムが始まった頃は、この石には名前がなかった。しかし終わる頃には、名前が付くであろう。何故なら、この石が自分で喋り出すに違いないから。そう思って、私はこの50日間、八王子で仕事をしてきた。私の仕事は、石との対話の中でゆっくりと形を表し、周りの空間と一体となった。それは、日本語をしゃべれない私が作品に託したこの石に託した喜びと愛の言葉である。  今、はっきりと私の石は喋りだした。この石を、「石の歌」と名付けよう。」と作者は語る。	平成3年10月
96	化石	大木 達美	国道16号バイ パス左入橋交 差点	宇津木793	白御影石	第2回八王子彫刻シンポジウム作品  卵とナットを組み合わせた作品。「卵は自然、ナットは科学(人間)の象徴と考え、自然を人間が蝕んでいる現代を『化石』というメッセージに託して伝えたい。」と作者は語る。	昭和53年11月
97	慈	千野 茂	久保山公園	久保山町2-48	ブロンズ	母親が、子供を膝に乗せて、お互いに見つめ合う姿。「母と子のきずな、情愛の深さを母が子を慈しむ姿で表現している。作者は、どんどん彫刻に手を触れて、身近な物として親しんで欲しい。」と作者は語る。	昭和63年6月



番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
98	太陽の風景一区	藁谷 収	横川下原公園	横川町812-1	白御影石	<p>第8回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「私の住んでいる街でも、昔遊んだ森や林や川が少なくなってきた。自然と人間社会の関係には決して無視できない深い結びつきがあると考えている。私のこの作品は、人間が創り出した文化と自然がいつでも調和することを願いながら制作したもの」と作者は語る。</p>	平成3年10月
99	地平線の記憶	菊地 伸治	清水公園	犬目町143-2	白御影石	<p>第8回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「まだ人間が自然や宇宙や神に対しておそれを持っていた頃、地平線や空はどんな風に見えたのだろうか？どんな風に感じられたのだろうか？そんな憧れをこめて一打一打ノミを打った。」と作者は語る。</p>	平成3年10月
100	旅	朴 憲烈	石川市民センター	石川町438	韓国産白御影石	<p>第9回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>人間は、法律や教育によって、自然のままの動物から人格をもつ人間へと変わる。しかし、人間は潜在的に、囚人のように捕えられた全ての事から逃げ出して動物の本能に帰ろうとする欲求を持つだろう。私は自分の作品が創造的で、社会状況や歴史的背景についての自分の知識から自由なものであってほしいと願う。」と作者は語る。</p>	平成5年11月
101	燈標	古島 実	中野市民センター	中野町2726-7	黒御影石	<p>第9回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>「街角にあって光を放つ標識の役を務めたら幸いと思いながら...。」と作者は語る。</p>	平成5年11月
102	デッサン	マチエ・スザン コフスキー	石川町あさくらの公園	石川町1920	白御影石	<p>第4回八王子彫刻シンポジウム作品</p> <p>石を真っ二つに割ったら、中から年輪があらわれるこの作品は、石で時間の経過を表した作品。石の内側に現れた層は、時間の積み重ね。一番外側の層が現代を表現している。</p>	平成20年12月

番号	作品名	作者名	設置場所	設置場所住所	材質	作品説明	設置年月
103	追憶の風がふく	名嘉地 千鶴子	川口やまゆり館 ロビー	川口町3838	ブロンズ	<p>第17回西望賞受賞作品</p> <p>或る日、林の中を歩いている時、枯れ木の間を吹き抜ける風が、ふと忘れかけた古い記憶を鮮やかに思い出させ、そして、次々に遥か遠くに風が運んで消えていく状態を表現している。</p>	平成8年12月
104	永遠—愛—	竹田 光幸	エスフォルタアリーナ八王子	狭間町1453番1	楠	<p>国際平和年(昭和61年)記念彫刻で市が購入。一木作りの技法で作られている。</p> <p>昭和61年は、国際連合が定めた「国際平和年」。市も、平和を願って様々な事業を行いました。その一つが国際平和年記念彫刻の設置。昭和61年が、国際平和年であったことを記念するとともに私たちが平和について考える為のきっかけになるように作られたもの。</p> <p>「宇宙から下りてきた手と、大地から持ち上げる手をデザインした。平和そして人間愛というものは、身近なところから現れるのではないだろうか。そこで一番身近な”手”という形を作って、人間の在り方を表現した。</p> <p>台座には大地の強さ、上部のリングは宇宙の広がりを表すその間に、人間の体の中で最も美しい形をしている手像。大地から支える手、宇宙から大地を指差す手、2つの手像が永遠の人類の平和の心情を生み出すことを願って創造する。上から下へ、下から上へと空間の中に形の世界の指向を求め堂々とした中に軽快な空間と木の生なる温かさの存在を求めて制作する」と作者は語る。</p>	平成26年9月 (昭和62年4月～平成23年3月 旧市民会館に設置)